

# けんしゅうしましよ

3号  
R1. 7. 17  
文責 森

道徳 主題名 友達のために  
中心内容項目 B-10 主として人との関わりに関すること  
(友情, 信頼)  
資料名 ともだちやもんな, ぼくら  
2の1 授業者 飯田 忍

7月1日(月)2校時, 2の1において校内研究授業が行われました。  
友達ともっと仲良くなるために大切なことについて, みんなで考えを深め合う授業となりました。



## 今後の道徳の授業作りに向けて

今回の「ともだちやもんな, ぼくら」は友達を思いやることや助け合うことの大切さについて子ども達が実感できる教材でした。授業者からは, 教材を通して課題を追及する場面に時間がかかりすぎてしまったという反省がありました。低学年では教材の内容をある程度把握した上で考えさせたいというのもあり, 時間配分は今後も課題となりそうです。

渋谷指導主事からは, 飯田先生の板書, テンポ, 声の大きさ, 児童との関係などが大変素晴らしかったこと, 違う発問でも似たような発表が出ていたので発問を1つに絞るとよかったこと, まとめの部分についての時間配分などについてお話がありました。教室には道徳ノートの書き方や振り返りの仕方などの丁寧な掲示物があり, 学年の実態に合わせた学習環境づくりは大変参考になりました。

参観日の準備などもあり, お忙しい中授業を公開してくださった飯田先生, ありがとうございます。

### 1 問題意識をもたせる導入について

- 最初の指導案では, 「友達ってどういう人?」という発問であったが, 「友達と仲良くしていますか」という発問に変わり, シンプルな導入でわかりやすかった。その分, 課題を書くのに時間がかかってしまい, 児童の思考がストップしてしまったような印象があった。
- 学年の実態に応じてではあるが, 課題を書くのに時間がかかってしまうため, 2年生については中心発問に対する考え, 自分のまとめをノートに書くだけでよいのかもしれない。

### 2 自我関与させる授業展開であるために

- 「自分ならどうする?」という発問に対し, 「自分なら助けに行けない」と答えた児童がいた。その意見を取り上げ, それでも助けに行くということについてみんなで考えてみるのもよかった。
- 中心発問「助けに行こうと決めたのはなぜ」とその前の発問「悩んでいた時にどんなことを考えたか」が似ていたため, 同じような考えが児童から出てきていた。どちらか一つの発問に絞っておくと, 2の部分(価値の追求・把握)をコンパクトにすることにもつながると考えられる。
- 「最初と最後では, どちらのほうが仲良し?」という発問のほうが, 活発な意見が出ていたため, いろいろな考えをもう少し聞き, 深められるとよかった。

### 3 生活とつなげる振り返りとなっていたか

- 教材から離れて考える部分では, 教材で学んだことと結び付けて児童に考えさせる。  
こぼした給食をみんなで片付けている写真→「この時みんなはどんな気持ちで助けに行ったの?」など教材と結びつけ, 児童に考えさせたいことをはっきりさせて発問するとよい。